

「東郷学園義務教育学校の南瀬地区の太鼓踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学年・人数

5年生～7年生 計27人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月～10月ふるさと・コミュニケーション科（本校交流スペース他）
令和5年11月1日（水）学園祭りハーサル（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和5年11月2日（木）東郷学園義務教育学校学園祭（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

南瀬太鼓踊り（のうぜたいこおどり）

(2) 由来

約450年前から始まった踊りで、作物が育つことや雨が降ってほしいという意味が込められている。鐘を鳴らすのは、虫を近づけないようにするためである。

(3) 構成等

小太鼓、1番鐘、2番鐘、1番太鼓を約32人で太鼓や鐘を鳴らす。下方限・上方限の2種類があり、下方限は戦の前に踊り、上方限は戦の後に踊る種類である。

5 保存会や地域との連携の具体

5～7年生のふるさと・コミュニケーション科の学習の一つとして位置付けており、毎年、保存会の方々に指導をいただいている。コロナ禍以前は、南瀬地区の地域振興大会で、保存会の方々が、この太鼓踊りを披露してくださっていた。保存会の存続も厳しい状況にあるが、来年度以降も児童生徒への指導を依頼しているところである。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

南瀬地区の伝統芸能については、5～7年生のふるさと・コミュニケーション科の学習において、地域の方々から踊りの由来や意味について学習している。今年度は学園祭りハーサルで、学習した児童生徒が指導していただいた地域の方々を招待し、踊りを披露した。地域の方々には「これまでで一番の出来」ととても喜んでいただいた。この伝承芸能については、児童生徒もその勇壮さやすばらしさを体感している。

東郷地域の一員としての自覚や地域を誇りに思い、地域に貢献していこうとする心情を育むためにこれらの学習は続けていきたい。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【南瀬コミュニティ協議会での練習風景】



【学園祭での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童生徒】

南瀬の伝統的なものにふれあって感じたことは鐘を使ったり，太鼓を使ったりして，あまりさわれない物を使えたのでいい経験になった。そして何よりも昔の人々の思いや考えを知ることができたので，一つ一つの動きにそれを込めて，鐘をたたいたりすることができた。

【教職員】

南瀬太鼓踊りは太鼓や鐘の音の迫力があり，昔の方々の作物への思いが伝わってきた。子供たちは保存会の方々の話を真剣なまなざしで聞くことができ，意欲的に学ぶ姿が見られて良かった。踊りの由来や意味を学び，踊りも上手にできていた。

【保護者から】

とても迫力があつた。他地区の伝統を知ることができ保護者も勉強になっていると思う。我が子が来年，どこの地区の伝統芸能を発表するのか楽しみである。

【地域・保存会の方から】

今年も素晴らしい発表だった。練習の成果が出ていたので良かったと思う。やはり，ただ踊るのではなく，意味をしっかりと理解させることが大切である。先生達には子供たちに郷土を愛する心を育ててほしい。